

マスクの向こう側

隠岐の島町立都万中学校 三年 石川海斗

世の中はすっかり新型コロナウイルスに対する予防策や感染拡大防止策のある生活が当たり前になっています。僕が中学校に入学したときにコロナウイルスが猛威をふるいはじめました。そして今僕は中学三年生になりました。

以前に比べると、コロナに対する極端な恐れはなくなってきましたが、今でも人々の生活の中に、「マスク」があるのが当たり前になっています。さて、この「マスク」に関して、いくつか考えることがあります。

例えば人通りの多い場所で、マスクをしていない人を見たら、僕は少し違和感をもってしまう気がします。この「違和感」は、かなり悪い意味での「違和感」です。「なんでマスクしないんだろう」とか、「周りのことを考えていない」とか、ひどいときは「近づきたくないな」という気持ちになることもあります。

マスクをつけていないというだけで、その人に対して嫌悪感や悪い印象を抱く。このように、状況だけを切り取って、その人は悪い人だと決めつけることこそ、危険なことのように思えます。

もしかしたら、何か理由があるのかもしれないのに、それに、話をしてみたわけでもないのに悪い人だと決めつけてしまう。そんな風潮が今の世の中にはあるような気がしてなりません。

僕自身もそうなのですが、頭では「マスクだけでその人のことを判断してはいけない」と分かっているはずなのに、心の中ではそうなっていません。マスクが当たり前になっている今の社会ならではの問題だと思います。

どうしたらこの問題が改善されるのか、僕なりに考えてみました。おそらく「マスクをしているかしていないか」という状況だけで判断せず、その向こう側に何か理由があるということをもう一度理解しなおすべきだと思います。熱中症予防の観点、肌にマスクがどうしても合わない、など、思いつくだけでもいくつも理由は想像できます。マスクをつけているかそうでないかは、人を嫌ったり、遠ざけたりする理由にしてはいけないと思うのです。

僕はマスクの向こう側にいるその人自身と関わっていきたいです。マスクによって印象を左右されている、というのはまさに表面的な部分でしかその人を判断できない状況に陥っていると言えます。マスクに惑わされず、今自分が関わろうとしている人物の本質的なところを見つめることが、本当の「人間関係」だと思います。

いつか、マスクをせずに町を歩ける日が来てほしいと思っています。いつか必ず来るその日まで、僕たちは「本当の人間関係」とは何かということをしつかりと考え続けていくべきではないでしょうか。